

令和4年度第2回放課後児童クラブ支援員研修 レポート

2022年12月1日(木)

【クラブ】あそびばクラブ 【名前】島田歩実

消防の方による今回の救命処置講習は、とても貴重な学びの場となりました。

手当には、現状よりも悪化させないための“応急手当”と、命を救うための“救命処置”があると仰っていました。学童での生活の中で、応急手当をする機会はとても多いです。切り傷、打撲、たんこぶ、歯痛…。今どんな手当をするべきなのだろうと判断に迷う場面もあります。保護者さんあるいは医療機関さんへ引き渡すまでに、状態が悪化せず、また安静に心穏やかに過ごすことができるように、ひとつひとつ手当の仕方を改めて学んでいきたいなと感じました。

消防の方のお言葉の中で、“周りの大人が気に掛けてあげることができれば防ぐことのできる事故がたくさんある”というお言葉がありました。窓に飛散防止シートを貼ること、庭に大きな石が落ちていないように拾うこと等、やるべきことはたくさんあると感じました。チェックシートにも項目があったように、“安全に関わる業務への配慮”を指導員同士で協力をして多くの目を見て、日頃から取り組んでいこうと思います。

一刻を争う、命に関わる処置として、AEDや心肺蘇生を実際に経験させて頂きました。ボタンを押すことをためらうことのないようにするために、オートショックのAEDが増えてきているということを知りました。人形を目の前にしても、AEDの音声に従いながら心肺蘇生をすることはとても緊張感がありました。実際に子どもを目の前にした時に、少しでも冷静な気持ちでいられるようにするためには、今回のような研修によって経験や知識をひとつひとつ積み重ねていくことが大切だと改めて感じました。自分がまずは躊躇せずいち早く一步を踏み出し動き出すこと。そしてあそびばクラブの周りは、人通りも多く、お店も並んでいます。いざという時には、命をつなげるために多くの方のお力も迷わずおかりすること。大切な命を救急車の到着までつなぎとめることができるようにこれらのこと、そして今回学んだことを心に留めて過ごしていきます。